信仰の決断

ヨシュア記24章1～15節
2021年6月27日
松田 基子 師

私たちは今朝、こうして会堂に集まって、三位一体なる神様を礼拝しています。 しかし、神様とは一体どういうお方なのか、人間の側からは、全く分かりませんでした。 人間は神様に背いてしまったために、神様との関係を切って、迷い出てしまい、真の神様の事が分からなくなりました。 本来人間は神様に頼って、生きて行けるように造られましたので、人間は、 神様から離れると、自分の頼るべきものを求めて自分の願望の投影である偶像を求め、偶像に頼って、生きる様になりました。

神様はその道が、
『神様が造られた良き世界を破壊して行く』
ものであるため、放置なさることが出来ませんでした。 そのため、ご自身の方から、神様に聴き従う人間を求めて、呼び掛けられました。 聖書は神様の、その呼び掛けに、人々がどう応えて来たかを、記しています。 それと同時に、その中で、神様が人類に与えられた御心が示されています。

ですから、私たちは聖書を通して、そこに表されて居る神様を、神様として呼び求めて、礼拝をしています。 神様は、人間がご自身に背いた始めから、人間を捜し求め、呼び掛けてこられました。 創世記の3章では、神様に背いた人間の祖を現したアダムが、自分の罪を隠そうと、神様の顔を避けて、園の木の間に隠れていると、神様はアダムを呼んで、
「**どこにいるのか。**」
と応答を求められました。 聖書にはそれ以来、神様がご自身の呼び掛けに**答える人間を探し求め続けておら**れることが記されています。

この神様の呼びかけに対して、自分で**決断し**、神様に**従うことを告白する**ことが、**信仰**です。
神様はこの信仰を、人類に求めて、とても長い時間をかけて、人間の思い、考え、生き方の歩みに合わせて、導いて来られました。 神様はご自身の呼びかけに応答したアブラハムの子孫、イスラエルを、ご自身に聞き従う民に育て、神の国を築き、世界に、ご自身が天地万物を造り、人間を造り、生かし、歴史を導いておられる、真の神であられることを示そうとされました。
そのイスラエルの民は、神様に呼び出されたモーセを指導者に、エジプトの奴隷の身から、救出されて、約束の地、カナンまで、40年を経て、導き入れられました。

指導者はモーセから、ヨシュアに代わり、長い年月をかけて、偶像の民と戦い、その地に定住しました。 今やヨシュアも110歳を迎え、神様の御許に召される日が近いことを自覚しました。
ヨシュアは自分の亡き後の同朋の信仰を一番心配しました。ヨシュア記最後の24章で、ヨシュアは、イスラエルの全部族をシケムに集めました。
ここは、イスラエルにとって、大切な記念すべき場所でした。 イスラエルの先祖、アブラハムが、神様に呼ばれ、御言葉に従って、カナンにやって来た時、創世記12章6節で、
「**アブラム**（後にアブラハムに改名）**はその地を通り、シケムの聖所、モレの樫の木まで来た。 当時、その地方にはカナン人が住んでいた。 主はアブラムに現れて、言われた。**
『あなたの子孫に、この土地を与える。』
アブラムは彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。」
という大切な場所でした。

その時から、約700年、神様はイスラエルにアブラハムとの約束を果たして下さったのです。
約束が成就したこの時、神様の最初の約束の場所に集まることは、意義深いことでありました。
何よりも、神様の真実が誉め讃えられるべきでありました。 ヨシュアは24章2節で、
「**イスラエルの神、主はこう言われた。**」
と神様の言葉を伝えました。
「**あなたたちの先祖は、アブラハムとナホルの父テラを含めて、昔ユーフラテス川の向こうに住み、他の神々を拝んでいた。**」
とあります。

創世記11章を見ますと、彼らの故郷は南バビ

ロニア、ユーフラテス川の下流に栄えた都市、ウルでした。 その地方では月を神とする月神礼拝が盛んに行われていました。 当時の考えでは、

『土地にはその土地を支配する
神々がいる。』

と考えられていました。 ですから、テラ達もその影響を受けていたことでしょう。 そこで、土地を離れるとは、その土地の神々からも離れる事です。 神様の選びと呼び掛けは、ここにあったのでしょう。

彼らが、シリアの都市、ハランまで来ると、テラは、そこで亡くなりました。 神様は、テラの子アブラムに、心を寄せられ、御声を掛けられました。 創世記の12章1節で、

「主はアブラムに言われた。
『あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。 わたしはあなたを大いなる国民にし、あなたを祝福し、あなたの名を高める。 祝福の源となるように。』」

と命じられました。 アブラムは主の言葉に従って旅立ち、カナンの地に導かれたのでした。

その事を神様は、ヨシュア記24章3節で、

「わたしはあなたたちの先祖アブラハムを川向こう(即ち、他の神々、偶像神の支配する土地)から連れ出して、カナン全土を歩かせ、その子孫を増し加えた。」

と言っておられます。 どの様にして子孫は増し加えられたのでしょうか。 神様はアブラハムとサラが、全く子供が望めない状態まで待って、約束の子イサクをお与えになりました。 イサクにはヤコブとエサウが与えられました。 神様はこの時、 長子エサウには、セイルの山地に定着する事をお許しになりました。 一方弟でありながら、神様の祝福を執拗に求め、神様から離れなかったヤコブを、神様は愛して、アブラハムとの契約を彼にお与えになりました。

しかし、ヤコブの一族70名は、飢饉を避けて、エジプトに移住し、約束の地を離れてしまいました。 400年後、ヤコブの子孫は、出エジプト記1章7節に、

「イスラエルの人々は子を産み、おびただしく数を増し、ますます強くなって国中に溢れた。」

とありますが、イスラエルはその時、エジプトの奴隷とされていました。 アブラハムとの契約は、人間的には、長い年月が経ち、イスラエルは奴隷の身であり、忘れ去られていた様に考えられます。 しかし、神様の側では、はっきりとした御計画をお持ちでした。 彼らはエジプトで数が増していたのです。 そこに、モーセを誕生させ、彼を、イスラエル人を出エジプトさせる指導者とするために、十分な備えをさせた後、神様はモーセの名を呼ばれました。

出エジプト記3章6節で、

「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。
それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々とした素晴らしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。」

「今、行きなさい。 わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。 わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

と命じられました。

それから、神様がどの様にして奴隷のイスラエルをエジプトから救出して下さったかが、ヨシュア記24章5節から、記されています。

「わたしはモーセとアロンを遣わし、エジプトに災いをくだしたが、それはわたしが彼らの中にくだしたことである。 その後、わたしはあなたたちを導き出した。 わたしがあなたたちの先祖をエジプトから導き出し、彼らが葦の海につくころ、エジプト軍は戦車と騎兵を差し向け、後を追ってきた。 彼らが主に助けを求めて叫ぶと、主はエジプト軍との間を暗闇で隔て、海を彼らに襲いかからせて彼らを覆われた。 わたしがエジプトに対して行った

ことは、あなたたちがその目で見たとおりである。」
と神様は言われました。

イスラエルは、エジプトでの奴隷時代、人間的には、神様から忘れ去られた様な状態にありました。 しかし、**困難であれば困難であるほど**、そこに働いて下さる**神様の力は大きい**のです。 イスラエルの出エジプトには、そのことが表されています。 そのような大きな神様の御業を体験しながらも、神様に信頼出来なかった、第一世代は、40年の長い間、自分たちが言った言葉の通り、荒れ野で死に絶えるまで、荒れ野放浪の生活をしなければなりませんでした。 しかし、その間、**第二世代は**、神様の御言葉に聴き従う**訓練が成され**ました。

私たちは自己中心ですから、
『神様が何故イスラエルに、そのような苦難の道を歩ませられたのだろうか。』
と思います。 しかし、罪の支配する世界で、神の民となるためには、神様の御言葉に絶対的信頼を置く訓練が必要なのです。 神様は訓練されますが、必ず逃れる道を与え、それに打ち勝たせ、そして、また、約束を守って下さるお方なのです。 神様はアブラハムに約束された通り、彼の子孫、イスラエルに、カナンの地をお与えになりました。 ヨルダン川の東側では、アモリ人の王シホンとバシャンの王オグが、彼らから攻撃を仕掛けて来たために、神様は彼らに打ち勝たせてくださり、その領地をお与えになりました。 モアブの王バラクは、アンモンの占い師バラムにイスラエルを呪わせて、打撃を与えようとしたのですが、 神様は異教の占い師バラムにイスラエルを呪うのではなく、祝福をするようにとお命じになり、祝福されたのでした。

11節からは、ヨルダン川を神様の奇跡によって渡り、ヨルダン川の西側も、エリコの城壁崩落の奇跡に始まり、神様は次々に戦いに勝利させて下さいました。 12節に、神様は、
「**わたしは、恐怖をあなたたちに送り、剣にもよらず、弓にもよらず、彼らと二人のアモリ人の王をあなたたちのために追い払った。**
わたしは更に、あなたたちが自分で労せずして得た土地、自分で建てたのではない町を与えた。 あなたたちはそこに住み、自分で植えたのではない、ぶどう畑とオリーブ畑の果実を食べている。」
と言われました。

神様はご自身に応答した先祖達との約束の故に、イスラエルを決して見捨てず、それどころか、分に過ぎる祝福をお与えになったのです。 神様はイスラエルに、
『わたしは、この様にあなた方に愛を注いできたのだよ。』
と言っておられます。 本来なら、イスラエルの側から、
『神様、あなた様は、ご自身に応答した先祖の小さな信仰に応えて、何百年もの後の、私たち子孫をかえりみ、出エジプトから、カナンの土地取得に至るまで、神様の一方的なお恵みに寄って、私たちは、今日、このように、大きな祝福を頂いています。』
と、イスラエルの側から、神様に御礼を申し上げるべきです。

そこで今度は、ヨシュアが、この様に、憐れみ深い真実な神様に、**何をもって応えるべきか**を同朋に教えました。 14節に、
「**あなたたちはだから、主を畏れ、真心を込め真実をもって彼に仕え、あなたたちの先祖が川の向こう側やエジプトで仕えていた神々を除き去って、主に仕えなさい。**」
と勧めました。

ヨシュアは、人間の優柔不断を知っていました。 人間は欲張りなので、捨てられません。 エジプトには多くの神々があり、親代々、馴れ親しんできました。 あれもこれも欲しいので、それを聞いてもらえる神々から離れられません。 モーセによって40年の間、ヤハウエ、即ち、
『あるものをあらしめる創造主である真の神様は、このお方だけであり、奴隷の身から約束の地での、安住を与えられたのは、唯、このお方の愛に寄る。』
ことを、体験してきたにも拘わらず、このお方だけに心を注ごうとはしないのです。 つまり、人間は二心なのです。

人間は傲慢にも、神様を利用するのです。
困った時の神頼みです。 しかし創造主なる神様は、人間に利用される様なお方ではありません。 神様はモーセの名を呼ばれた時、
出エジプト記の3章6節で、
「**わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。**」
と言われました。 これはとても大事な事です。
神様は、一人ひとりの名を呼び、一人ひとりと、人格的な交わりを持たれる、生ける神様です。
神様はその人そのひとに対して、 最善を尽くして下さいます。 それ故に、相手からも神様一途に、**全存在を委ねる**ことをお求めになります。
この**決断をする**のが、
『**神様を信じる**』
と言うことです。

ヨシュアは、同朋に、
『二心であってはいけない。 身の回りに置いて居る守り神を捨て去り、決別しなさい。
そしてヤハウエの神様のみを神とし、心を尽くし、魂を尽くし、力をつくして、あなたの神、主を愛しなさい。』
と、ヨシュアは、**ここに**、人間が**生きる**べき**目的がある**事を確信して、全イスラエルに勧めました。
しかし、信仰は強制して出来るものではありません。

そこでヨシュアは15節に、
「**もし主（ヤハウエ）に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。**」
と命じました。 **人生で一番大切な決断の日は、今日です**。 もっと良く考えてから･･･。 勿論そういうこともあります。 しかし、神様を信じると言うことは、自分の命、全存在にかかわることです。 そんな大事なことを、明日に延ばしてはなりません。 誰にも明日の保証は無いのです。
そして、もう一つ大事なことは、
『**自分**で選ぶ、**自分**の決断、**自分**の責任』
です。 そうであれば、自分の命の与え主、自分の全存在を、確かな御手で、今日まで導き、死を越えて責任を持って下さるお方に、**こそ**、真に従うべきではないでしょうか。

ヨシュアは、自分の決断において、
「**わたしとわたしの家は主に仕えます。**」
と告白をしました。
今日、神様は、私たちにも、私の名を呼んで下さり、
『**わたしは**あなたを永遠の**滅びから救う**ために、独り子、**イェス・キリストを与えた**。』
『**あなたは**、このわたしの**愛に応えて**、**わたしを信じ従って**来なさい』
と、招き続けて下さっています。 私たちは自分の決断において、神様に自分の全存在を委ね、一途に天を見上げ、神様を信じ従って行こうではありませんか。

お祈りをいたします。
天の父なる神様

あなた様は、どんなお方なのですか、
罪深い私たちに、**聖書を与え**、
イェス・キリストをお与えになり、**ご自身を示して**くださり、**ありがとう**ございます。

そして、私たちの名を 呼んで、
「**従いなさい**」
と招いて下さる恵みを**感謝します**。

あなた様だけが、真の神であられ、
私たちの全存在を、永遠に保証して下さる、
唯一人のお方です。 そのご愛に応えて、
信仰を告白し、一途に従っていく者と
ならせて下さい。

この大いなる祝福を、お一人おひとりに、
お与え下さい。

尊い救い主、イェス・キリストの
お名前によってお祈りを致します。
アーメン。